

館山海上技術学校マリンセミナー開催

7月21日 全海運と関東船対協協賛、総連合会協力

全国海運組合連合会と関東地区船員対策協議会が協賛、日本内航海運組合総連合会が協力する国立館山海上技術学校の夏休み恒例のマリンセミナーが7月21日、同校で日徳汽船(株)日浦公德氏(全海運理事)を講師に迎えて開催された。

この行事は夏休み期間中に毎年、生徒の保護者が同校に泊まりがけで、練習船による海上実習を始め各種実習、授業などを体験するもの。保護者達にとって、自らが体験することで生徒との親子関係を深め合い、日頃接することの少ない保護者同士の親睦を図り、学校の教育現場を理解することが出来ると好評。セミナーには毎年、同校卒業生の採用企業関係者を講師に迎え、保護者達の知らない内航海運の現状や船員生活・労働環境などをテーマに講演して来たが、新型コロナウイルス蔓延防止対策から、去年は開催が中止された。だが、保護者からセミナーの開催要望が強いことから、今年は日帰りのリモート会議形式で開催することとなったもの。

セミナーは榎本成男関東船対協会長(関東沿海海運組合理事長、榎本回漕店社長)と遠藤俊伸同校校長の挨拶で幕を開け、「内航船員という仕事について」と題した日浦氏の講演では、①内航海運と内航船舶の紹介 ②船員の職場環境や就労実態 ③船員の待遇、企業の人材育成などがわかりやすく説明され、参集した33名の保護者達が熱心に耳を傾け、その後は活発な質疑応答となった。



保護者達